



学校法人松本学園

松本大学

PRESS RELEASE

[発信] 松本大学入試広報室

〒390-1295 長野県松本市新村 2095-1

TEL0263-48-7201 FAX0263-48-7291

http://www.matsumoto-u.ac.jp

平成 30 年 10 月 25 日

報道関係各位

## 南安曇農業高校×松本大学×上土商店街

### 高大連携型学生カフェプロジェクト「NSOM (のぞむ) CAFE」

拝啓

秋冷の候、貴社ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は大変お世話になっております。

さて南安曇農業高校によるカフェ「NSOM (のぞむ) CAFE」は9月3日に第1回を開催しましたが、台風のために延期となっていた第2回について、11月3日に開催することになりました。

「NSOM (のぞむ) CAFE」とは、松本大学観光ホスピタリティ学科白戸・畑井・増尾・向井ゼミが進めている上土町の「カフェあげつち」を拠点にした「学生カフェプロジェクト」の一環であり、南農(N)生徒(S)オリジナル(O)メニュー(M)を表し、安曇野市を中心とした農産物の消費拡大を目指し、特に規格外品などの活用方法を提案するカフェメニューの開発と実証実験を行うものです。第1回は羊ややぎが子どもたちの人気を集め、大勢の地域の方々や観光客の方々に楽しんでいただきました。さらに「農業と畜産の力を活用した中心市街地活性化プロジェクト」の一環として、上土商店街にあるあげつちカフェを中心に、地域の高齢者の方との関わりや、幅広い世代・観光客の交流の場を上土の中に創造することを目的としています。

つきましては、ご多忙のところ誠に恐縮ですが、事業のご紹介および取材方よろしくお願いたします。

敬具

記

日 時： 平成 30 年 11 月 3 日 (土) 10 時～15 時  
場 所： 下町会館 (大手 4-8-11)  
主 催： 南安曇農業高校  
協 力： 上土町会、松本大学、大正ロマンのまちづくり協議会  
内 容： ①カフェあげつちの運営  
②畜産物の販売 (市民祭にあわせ上土どおりの歩行者天国区間で販売します)  
③燻製・卵など (南農製品の販売)  
参加者： 南安曇農業高校生徒・教職員 18 名 松本大学学生 (支援会ゆにまる等)  
上土関係者など  
その他： 詳細な内容についての問合せは南安曇農業高校・小池晃教諭にお願いします

以上

■本件に関するお問合せ先

松本大学 白戸研究室・畑井研究室・向井研究室 TEL 0263-48-7200(代表)



平成30年8月25日  
長野県南安曇農業高等学校  
動物バイオテクノロジー研究部

## 企画書

### 「南農あげつちカフェ」プロジェクトについて

#### 1 カフェ名称

「NSOM (のぞむ) CAFE」

(南農生徒オリジナルメニュー N:南農 S:生徒 O:オリジナル M:メニュー)

#### 2 カフェのコンセプト

安曇野市を中心とした農産物の消費拡大目指し、特に規格外品などの活用方法を提案するカフェメニューの開発と実証実験を行う。

#### 3 南農あげつちカフェの目的

「農業と畜産の力を活用した中心市街地活性化プロジェクト」の一環として、上土商店街にあるあげつちカフェを中心に、地域の高齢者の方との関わりや、幅広い世代・観光客の交流の場を上土の中に創造する。

#### 4 取り組みの目的・最終目標

- ① 高齢化に伴う河川敷の草刈りをシバヤギとヒツジを活用した環境配慮型の景観形成と動物を活用した観光資源として、中心市街地に観光客と草刈りの主体となる農業高校生等の若者を呼び込む。
- ② 上土商店街振興組合、地元松本大学観光ホスピタリティー学科、穂高商業高校と連携し、松本市の施設である上土振興会館を中心とした、学生カフェによる、地元農産物を使用した喫茶メニューの開発・提供を行う。特に、地元の畜産物や農産物のPRの場として位置づけ、外国人観光客が多い地の利も活かし、英語メニューや英語学習を深め、観光客としての外国人や地元の外国人向けにも積極的にPRを行う。
- ③ 夏場の観光客向けに、農産物朝市を定期開催し、県外宿泊客の胃袋をつかむ。特に、持続可能な仕組みにするため、本校OBが多い地元JAと連携協定を結び、高校生と大学生、JA職員の運営組織を作成し、運営にあたる。軌道にのれば、地元商店街へ運営を委譲する。
- ④ 地元の農産物を、商店街加盟の商店(飲食業・土産・菓子業)に、使ってもらうために、高校生がプロデュースする商品開発に協力していただき、旬の素材を提案していく。

最終目標として、上記にあげた4つの取り組みが軌道に乗り、高校生が運営するのではなく、地元の大人が商売として成り立つように、関係者とともに支援していく。

農業高校生と地元大学生が街作りや商店街振興組合、地元JAや行政(松本市)との繋ぎ役になることで、若い段階から地域のコミュニティーに所属し、町内会の仕事や役割を理解することで、地元の農業や地元を構成する町内会の一員としての誇りを育て、積極的に町内会の仕事を行える人材を育成する。

■本件に関するお問合せ先

松本大学 白戸研究室・畑井研究室・向井研究室 TEL 0263-48-7200(代表)



学校法人松本学園

松本大学

PRESS RELEASE

[発信] 松本大学入試広報室

〒390-1295 長野県松本市新村 2095-1

TEL0263-48-7201 FAX0263-48-7291

<http://www.matsumoto-u.ac.jp>

### 3 取り組みの内容

- ① 高齢化に伴う河川敷の草刈りをシバヤギとヒツジを活用した環境配慮型の景観形成と動物を活用した観光資源として、中心市街地に観光客と草刈りの主体となる農業高校生等の若者を呼び込む。(9月2日のみ)
- ② 上土商店街振興組合、地元松本大学観光ホスピタリティー学科、穂高商業高校と連携し、松本市の施設である上土振興会館を中心とした、学生カフェによる、地元農産物を使用した喫茶メニューの開発・提供を行う。特に、地元の畜産物や農産物のPRの場として位置づけ、外国人観光客が多い地の利も活かし、英語メニューや英語学習を深め、観光客としての外国人や地元の外国人向けにも積極的にPRを行う。
- ③ 夏場の観光客向けに、農産物朝市を定期開催し、県外宿泊客の胃袋をつかむ。特に、持続可能な仕組みにするため、本校OBが多い地元JAと連携協定を結び、高校生と大学生、JA職員の運営組織を作成し、運営にあたる。軌道にのれば、地元商店街へ運営を委譲する。
- ④ 地元の農産物を、商店街加盟の商店(飲食業・土産・菓子業)に、使ってもらうために、高校生がプロデュースする商品開発に協力していただき、旬の素材を提案していく。

---

■本件に関するお問合せ先

松本大学 白戸研究室・畑井研究室・向井研究室 TEL 0263-48-7200(代表)